

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 3 区分

【発行日】平成 19 年 5 月 24 日 (2007.5.24)

【公開番号】特開 2005-303357 (P2005-303357A)

【公開日】平成 17 年 10 月 27 日 (2005.10.27)

【年通号数】公開・登録公報 2005-042

【出願番号】特願 2004-112293 (P2004-112293)

【国際特許分類】

H 0 3 H 9/145 (2006.01)

H 0 3 H 9/25 (2006.01)

【F I】

H 0 3 H 9/145 Z

H 0 3 H 9/25 C

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 3 月 27 日 (2007.3.27)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

圧電基板上に配設した一対の反射器と、
前記一対の反射器の間に並列して設けられる櫛歯状電極から成る一対の I D T と、
を有することを特徴とする S A W 共振子。

【請求項 2】

前記一対の I D T は、前記櫛歯状電極の交差幅を同一に構成することを特徴とする請求項 1 に記載の S A W 共振子。

【請求項 3】

圧電基板と、
前記圧電基板上に配設された一対の反射器と、
前記一対の反射器の間に配設された第 1 の I D T および第 2 の I D T と、を有し、
前記第 1 の I D T および前記第 2 の I D T は、弾性表面波の伝搬方向に直交するように配置された電極部を有する櫛歯状電極を一対備え、
前記第 1 の I D T および前記第 2 の I D T は、前記弾性表面波の前記伝搬方向と直交する方向に並列に配置されていることを特徴とする S A W 共振子。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 1】

また、上記構成の S A W 共振子においては、前記一対の I D T は、前記櫛歯状電極の交差幅を同一に構成すると良い。

上記構成により、相互の I D T による発振を同期させることができるとともに、周波数精度、周波数偏移精度を向上させることができる。これは、S A W 共振子における I D T は、その交差幅を変えることによって出力する周波数に僅かな変化を起こさせることによる。このため、I D T を構成する櫛歯状電極の交差幅を調整（制御）することにより、所

望の周波数制度を実現させることができる。

また、上記目的を達成するための本発明に係るSAW共振子は、圧電基板と、前記圧電基板上に配設された一对の反射器と、前記一对の反射器の間に配設された第1のIDTおよび第2のIDTと、を有し、前記第1のIDTおよび前記第2のIDTは、弾性表面波の伝搬方向に直交するように配置された電極部を有する櫛歯状電極を一对備え、前記第1のIDTおよび前記第2のIDTは、前記弾性表面波の前記伝搬方向と直交する方向に並列に配置されていることを特徴とするものであっても良い。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0025

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0025】

一方、IDT16bにおいては、切替手段22の制御により入出力経路の・を切り替えることによって、入力側となる櫛歯状電極と、出力側となる櫛歯状電極とが逆転する。この場合、発振する弾性表面波の位相は180°ズれることとなる。このため、切替手段22がに設定されている場合は、櫛歯状電極18aと櫛歯状電極18cとが信号入力側の電極となり、IDT16aとIDT16bとで発振する弾性表面波が同位相となり、発振回路としてS0モードの発振を奏する。一方、切替手段22がに設定されている場合は、櫛歯状電極18aと櫛歯状電極18dとが信号入力側の電極となり、IDT16aとIDT16bとで発振する弾性表面波は逆位相となり発振回路としてA0モードの発振を奏する。